

平成 25 年度 再々々評価調書（内部評価）

1 事業概要

事業名	山田池公園整備事業
担当部署	都市整備部 公園課 府営公園グループ（連絡先 内線 2982）
事業箇所	枚方市山田池公園 他
再々々評価理由	再々評価後 5 年を経過した時点で継続中
目的	山田池公園は、山に親しむ公園として位置付けられ、北河内地域の中心的な風致公園として整備を進めている。北地区は山田池を中心に池周辺丘陵地の樹林や竹林などをできるかぎり保全して花菖蒲園やあじさい園などの見所を整備し、南地区は広大な芝生広場とせせらぎ水路を中心とする開放的なゾーンとして整備する。また、都市周辺の環境を保全する重要な水と緑のオープンスペースとして整備を図る。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定面積 75.2ha（事業認可面積 74.8ha（事業完了区域含む）） ・造成工 約 65ha ・施設整備工 管理事務所・休憩所・便所等 ・植栽工 約 52ha 【主要施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・山田池 ・水生花園 ・花木園 ・展望広場 ・もみじ谷 ・芝生広場 ・川原広場 ・実りの里 他
事業費 （ ）内の数値は 再評価時点のもの	全体事業費 約 505.5 億円（認可約 501.9 億円） うち投資済事業費約 485.3 億円 （内訳）調査費 約 6.1 億円（認可約 5.8 億円） （内訳）調査費約 5.2 億円 用地費 約 399.7 億円（認可約 396.7 億円） 用地費約 395.7 億円 工事費 約 99.7 億円（認可約 99.4 億円） 工事費約 84.4 億円
事業費の変更理由	【事業費変動要因の状況】 変更なし 【他事業者との協議状況】 —
維持管理費	約 186 百万円／年（約 300 円／㎡・年）

2 事業の必要性等に関する視点

	【再評価時点 H15】	【再々評価時点 H20】	【再々々評価時点 H25】	【変動要因の分析】
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	開設面積 45.4ha	開設面積 60.2ha <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度の導入（H18.4） ・景観緑三法（H16.12）の施行による、地域における景観づくり、自然環境の保全等への重要性の高まり 	開設面積 71.7ha <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災を契機として、想定外地震への対応と都市防災の重要性が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の都市防災施設としての機運の高まり

	【再評価時点 H15】	【再々評価時点 H20】	【再々々評価時点 H25】	【変動要因の分析】
地元等の 協力体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察や花壇の育成、高齢者や身障者への公園利用のサポートを行うなど、多様なボランティア活動が盛ん。 	同左	同左	
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	【効果項目】 直接利用価値 間接利用価値 【分析結果】 ・ B/C= 1.06 B=350.2 C=331.2 【算出方法】 ・直接利用効果 健康、心理的な潤い、レクリエーション空間の提供 ・間接利用効果 都市環境維持改善 都市景観の保全等 【受益者】 公園利用者、周辺住民	【効果項目】 直接利用価値 間接利用価値 【分析結果】 ・ B/C= 1.94 B=189,732 C=97,757 【算出方法】 ・直接利用効果 健康、心理的な潤い、レクリエーション空間の提供 ・間接利用効果 都市環境維持改善 都市景観の保全等 【受益者】 公園利用者、周辺住民	【効果項目】 直接利用価値 間接利用価値 【分析結果】 ・ B/C= 1.80 B=230,735 C=128,406 【算出方法】 ・直接利用効果 健康、心理的な潤い、レクリエーション空間の提供 ・間接利用効果 都市環境維持改善 都市景観の保全等 【受益者】 公園利用者、周辺住民	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省都市・地域整備局公園緑地課監修「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」の改定による。 ※H16年2月（間接利用効果の計算方法の変更） H19年6月
事業効果の 定性的分析 （安心・安全・活力・快適性等の有効性）	【効果項目】 ・都市環境維持・改善、都市景観の保全提供、都市防災機能の確保 【受益者】 公園利用者、周辺住民	同左	同左	特になし
事業の進捗状況 <経過>	① 昭和46年度 ② 昭和47年度 ③ 平成20年度	① 昭和46年度 ② 昭和47年度 ③ 平成25年度	① 昭和46年度 ② 昭和47年度 ③ 平成30年度（延伸予定）	大阪府財政再建プログラム案により事業費配分を見直したため
<進捗状況>		<ul style="list-style-type: none"> ・全体 94% (476.5 億円 / 505.5 億円) ・用地 99% (394.4 億円 / 399.7 億円) ・工事 78% (77.3 億円 / 99.7 億円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体 96% (485.3 億円 / 505.5 億円) ・用地 99% (395.7 億円 / 399.7 億円) ・工事 85% (84.4 億円 / 99.7 億円) 	

事業の必要性等に関する視点における判定（案）	<ul style="list-style-type: none"> ・山田池公園は、枚方市の緑の基本計画に示される、緑の骨格軸を形成する拠点として、みどりのネットワーク化につながり、地域の人々にうおいと安らぎ、憩いや癒しの場の提供等重要な役割を果たす。 ・また、防災公園として、想定外地震への対応などが求められており、本事業により、後方支援活動拠点としてのエリアが確保され、より多くの避難住民に対する支援が可能となり、地域防災機能の向上につながる。 <p>以上のことから、継続する。</p>
------------------------	--

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点における判定（案）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業認可区域の未買収地はなく、事業認可区域内は、工事を平成 25 年から平成 30 年度までに完了する見込みである。 <p>以上のことから継続する。</p>
-----------------------	---

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点における判定（案）	<ul style="list-style-type: none"> ・用地は 99%、工事は 85%進捗しており、防災公園としての整備が平成 30 年度までに完了する見込みであることや防災公園に位置づけられていることから、代替案立案の余地がない。 <p>以上のことから継続する。</p>
------------------------------	---

5 特記事項

自然環境等への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な池や保全された樹林・竹林など自然とふれあえる水と緑のオープンスペースとして積極的な緑化空間の創出を図る。
前回評価時の意見具申と府の対応	<p>【意見具申】「事業継続は妥当」とであると判断する。</p> <p>【府の対応方針】「事業継続」とする。</p>
その他	<p>【上位計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府公園基本構想（H 5） ・みどりの大阪推進計画（H 2 1） ・大阪府都市基盤整備中期計画（案）（H 2 3）

6 評価結果

評価結果	<p>○継続</p> <p><判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業認可区域の用地買収は完了しており、工事においても平成 3 0 年頃終える見込みである。また、従来必要性に加え、防災公園としての機能を向上させるため、継続する。
------	--